

潮来市の誇れる文化 第146回

横山貝塚(埋蔵文化財)

所在地 潮来市水原字横山

大生原台地に集落を形成した多氏一族は、六世紀末から七世紀にかけ、大生神社を中心に百十余基の古墳を築造したと言われています。発掘された天子舞塚(まごまいづか)古墳からは、箱式石棺が発見され、玉類、銀銅環、直刀九振ほか多数の埴輪などが出土しました。出土品は大生原台地で力を有していた人物を想像させます。さて、古墳群に近い水原の畑中に、横山貝塚があります。実際には、貝塚があることを示す標柱が立っています。この横山貝塚は、縄文時代から古墳、奈良、平安に至る先人の生活の一端を地中に残しています。

長い歴史を経て、激動の昭和、平成、令和へと時は流れ、西暦は二〇二四年です。一方で、日本史の時間にほんの少し習った縄文時代は、現在の西暦よりもずっと長く、数千年の時の流れを刻んだと言われています。六百年ほど続いたと言われる弥生時代をはるかに上回ります。

気候変動や海面上昇が話題になることがありますが、「海進」時には海の魚が近くを泳ぎ、時を経て海水が後退していったと言われます。海進の頃の海面は、現在より相当広い海域面を有し、大塚野、江寺、貝塚、築地、水原、釜谷、大生、大賀などの台地が陸地をなしていたと見られています。

築造された古墳より古い時代の、悠久の歴史を残す貝塚は、重機の一すくい破壊することもできなくなもろい存在です。貴重な歴史を留めている郷土の貝塚を未来につないでいくことが求められます。

横山貝塚は、水原の横山にあります。畑中の標柱がその場所を示しているのですが、その地に立つことで、はるかな時を感じていただけると思います。



(参考文献)

常陸大生古墳群 潮来市の文化財

ふるさと潮来 潮来のあゆみ 潮来の古代を考える

潮来市文化財保護審議会委員 小沼 竹男

リポーター...

羽下 健太 隊員



地域おこし協力隊通信

第65回

講習を受けて感じたAEDの重要さ

突然ですが、皆さんはAED(自動体外式除細動器)を使ったことはありませんか? 私はこれまで使ったことが全くありませんでしたので、先日、上級救命講習会を受講してきました。今回はそのことについてお話ししたいと思います。

令和3年のデータでは、年間に緊急搬送された心臓機能停止傷病者は約8万9千人。そのうち心臓が原因であるものはおよそ8万2千人。毎日200人以上の方に心停止が起きている計算になります。救急車を呼ぶだけの場合とAEDを使用した場合では救命率が7倍も違うというデータもあります。

もしそんな場面に出会い、立ち会うことになった時、皆さんは適切な処置、対応ができますか? 私は今回の講習を受けて本当に良かったと思います。私自身、過去に2度近い経験があります。1度目は、高齢女性が苦しもうにうずくまっていたので救急車を呼んだこと。2度目は、真夏の炎天下の中、熱中症で道端に倒



潮来市役所1F(会計課横)に設置されているAED



修了証と人工呼吸用感染防護具



市内のAED設置場所

れていた高齢男性に手助けをしたことがあります。幸いにもお二人とも心肺蘇生の必要はなかったため、AEDや胸骨圧迫(心臓マッサージ)をすることはなかったのですが、もしそのようなより深刻な場面だったとしたら、当時の私はきっと、適切な対応は取れていなかったでしょう。

今回、改めてAEDの重要さを知り勉強になりました。今後もしもの時のためにも忘れないよう定期的この講習を振り返っていきたいと思います。現在AEDは街中のいたるところに設置してあります。特に不特定多数の人が利用する場所や公共施設です(市内には計7か所)。皆さんも一度最寄りのAEDの設置場所や使い方を調べて確認してみること、そして可能であれば講習を受けてみることをお勧めします。